

地方創生 これからも住み続けたい魅力あるまちへ

人口ビジョン

まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定

市では、少子高齢化による人口減少に歯止めを掛け、地域の活力を維持することを目指して、安曇野市版人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）を本年10月に策定しました。その概要についてお知らせします。

人口ビジョン

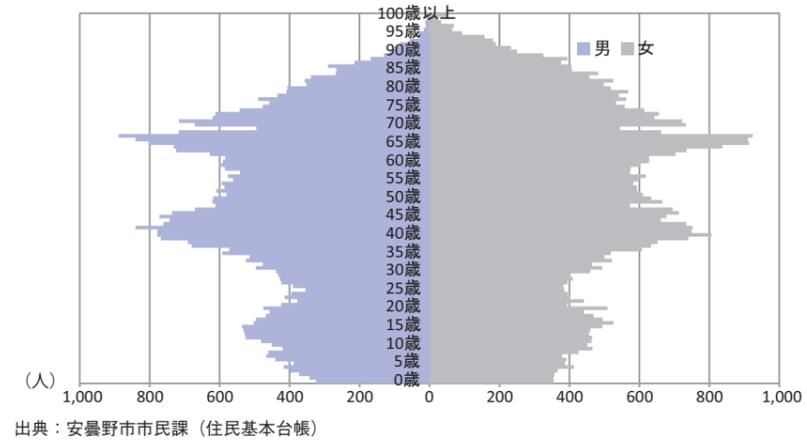
市の人口推移と将来の推計

現在の市の年齢別の人口構成を年齢別男女別に表したグラフ、いわゆる人口ピラミッドで見えます。（グラフ1）グラフの中心から棒グラフが伸びているほど人口が多いことを示します。

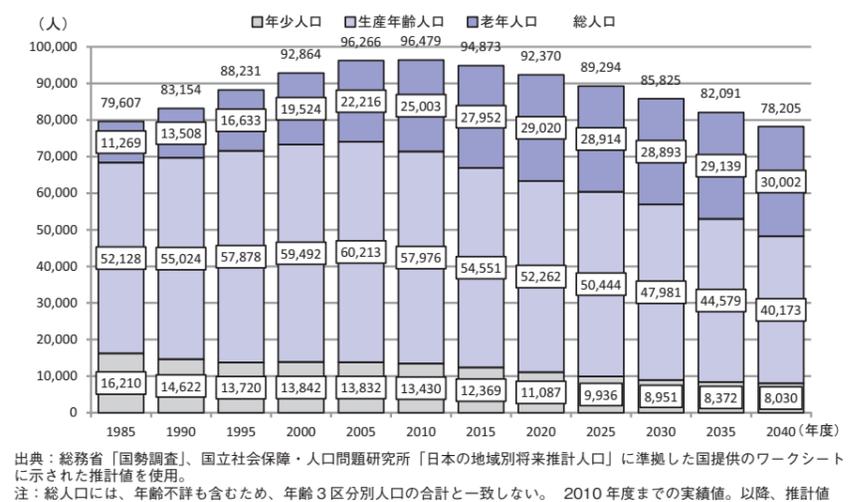
市の人口構成は、国の人口ピラミッドと類似し、第1次ベビーブーム（概ね65歳前後）と第2次ベビーブーム（概ね45歳前後）の2つのピークがある形状となっています。また、20歳代前半で大幅に人口が少なくなっており、高校卒業後に進学・就職等で市外に人口が流出していると考えられます。

次に、過去の人口推移と将来の推計を見てみます。（グラフ2）、2013（平成25）年度に公表された国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計値を用いた本市の将来人口の推計によ

■安曇野市の年齢別人口（グラフ1）



■安曇野市の総人口・年齢区分別人口の推計（グラフ2）



ると、2010（平成22）年度の人口9万6479人が、30年後の2040（平成52）年度には7万8205人まで減少すると見込まれ、30年間で約2割の人口減少が推計されます。

また、年齢3区分別で見ると、2010（平成22）年度から30年間で生産年齢人口（15歳～64歳）が5万7976人から4万173人と約1万8000人減少し、また、年少人口（0～14歳）は1万3430人から8030人と、5400人減少する一方で、老年人口（65歳以上）は約5千人増加すると推計されます。

2つのグラフから市内では、産まれる子どもの数が減少し、さらに20代から30代の子育て世代の人口流出が大きいこと、市も人口減少段階に入ったことが読み取れ、その中で年少人口と生産年齢人口は減少し、老年人口は増加する傾向が分かれます。

人口ビジョンの目標数値

2040（平成52）年度の市の人口を8万3千人に設定

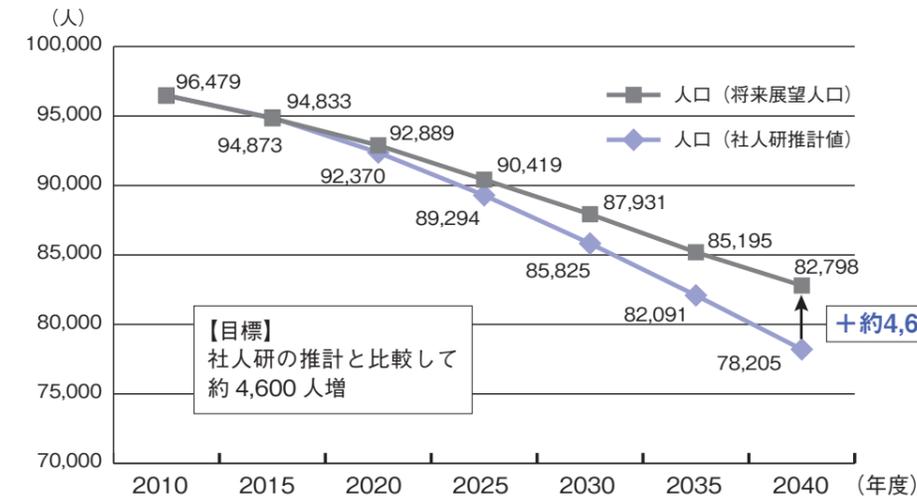
「人口ビジョン」は、前述の市の人口の現状を分析し、今後、市が目指す人口の将来展望を示したものです。これは、社人研の推計を基に、出生率の向上や移住者の増加目標を定めたものです。

■人口と合計特殊出生率の目標値（表1）

年度	人口	合計特殊出生率
2025年度 (平成37年度)	91,000人	1.60人
2030年度 (平成42年度)	88,000人	1.80人
2040年度 (平成52年度)	83,000人	2.07人

- ①現在の合計特殊出生率1.44人を2040（平成52）年度までに2.07人にする
- ②本市へ2020年以降、毎年子育て中の世帯15世帯が移住する

■安曇野市の年齢別人口（グラフ3）



※「合計特殊出生率」
一人の女性が一生のうちに出生する子どもの平均数

